



①上田市の学校給食の未来を考えるシンポジウム

給食シリーズ part.5

②社会が動き、政治が動く「7月10日は参議院選挙」

メールアドレス: masahiro3660@mac.com 上田市下之郷 473-1 TEL38-4452・FAX38-7935・携帯 09015542698 【わたなべ正博後援会】

《部内資料》

【わたなべ正博後援会】



【フロアーからの発言を紹介  
します】

### なぜいいものを残さないのか

○「中2・小1」のお父さん「自校の素晴らしさは子どもから伝えてもらっていた。残ると思っていたが、何故いいものを残さないのか。食育とは人間の五感を育てる。」  
○「小6・3」のお父さん「好き嫌いの多い子どもがいるが、給食の話になると兄弟で楽しそうに話している。自校を守って行きたい。」  
○元小学校の教員「子どもが少ない時代になぜお金を惜しむのか、腹立た

しいおもいだ。」  
○調理員「あの大雪のときセンターはふりかけごはんだったが、自校では豚肉から鶏肉にメニューを変えて対応できた。建てて54年になる調理室は、これまで事故もなく今でもやっている。」



○「小5・1」のお母さん「親や子どもの検討する機会もあたえず、決定とはおかしい。子どもが減っているからこそ自校が必要では・・・。」  
子どもに寄り添う  
アレルギー対応食  
○元小学校の教員「アレルギーの子の数は正確なのか?。松本にいる孫は

アレルギーだが対応してもらっている。上田はなぜやらないのかアレルギーの対応は今すぐやるべきだ。センター給食の学校から東塩田にきた初日、これはうまいと思っ

た。」  
パネラー市場祥子さん  
(元上田市学校給食運営審議会会長) 松本市はアレルギー対応を求めて親たちが市に直談判、当時30食程度だが対応した。

今は、アレルギーの児童数の増加と種類が増えて対応が課題になっている。アレルギーは年齢と共に変化もするので、正確な知識と医師の診断が必要です。

栄養を考えれば除去は対応食とはいえない

○「保育園児」のお母さん「今年4月から入園。重度のアレルギーでサンドのイチヂクが食べられず、ハムサンドのときはハムだけ、ジャムサンドはジャムだけでしたが、園と相

くらし・困りごと  
**なんでも相談**  
気軽に声をかけてください

メールOK

### わたなべ正博のノート

- 1日 サロンドTA
- 2日 街頭宣伝(終日)
- 3日 浅間池草刈り
- 4日 上田創造館周辺街頭宣伝
- 5日 浅間会総会
- 6日 獅子舞練習
- 7日 東塩田小学校運動会
- 8日 川西医療生協「健康のつどい」
- 9日 北線水路草刈り
- 10日 第67回全国植樹祭「獅子舞披露」
- 11日 学校給食を考えるシンポジウム
- 12日 上田市議会6月定例会「開会」
- 13日 一般質問通告「23番」
- 14日 平和行進実行委員会
- 15日 上田創造館打ち合わせ
- 16日 一般質問「関係部の聞き取り」
- 17日 一般質問「読み原稿づくり」
- 18日 ならないアクション「上田駅」
- 19日 日本共産党演説会「上田創造館」
- 20日 一般質問「原稿校正」
- 21日 通信「絆」づくり
- 22日 浅間池代表会
- 23日 13〜15日までの三日間「一般質問」
- 24日 生活相談「労働相談」
- 25日 あゆみ保育園理事會
- 26日 渡辺ブロック會議
- 27日 モルティイ塩田街演
- 28日 東信医療生協總代会
- 29日 東塩田交通安全協會總會
- 30日 浅間池草刈り
- 31日 消防ポンプ操法大会上田大会
- 1日 議會産業水道委員會
- 2日 觀光議員連盟役員會
- 3日 下之郷水土里まもり隊役員會
- 4日 上田小泉民主商工會總會
- 5日 上田市合併10周年記念事業
- 6日 上田市議會6月定例会「閉會」
- 7日 觀光議員連盟「視察受入対応」
- 8日 あいそめの湯と塩田地区議員と懇談

(6月12日現在)

[6月]

090-1554-2698

談してフランスパンにしてもらっている。」

○「小6」のお母さん「乳製品のアレルギー。新施設がアレルギー対応してくれろといわれているので、いいのかなーと思っていたが今日参加して心配になってきた。やっぱり自校がいいのかなー。」



パネラー 幸平正嗣さん (川辺小学校調理員) アレルギー対応は、ひとり一人医師の処方に従って、前日に打ち合わせし、直前に打ち合わせしてひとり一人の対応食をつくる。できた対応食は担任の先生に渡す。

### 「おかしい」と思ったら声を上げていきましよう

パネラー 安齋理江さん (歯科医師) 「食」という字は、人を良くすると書きます。食べるといふことは生きること、何をどう食べるかはどう生きていくかということですよ。

答申以後これまでどのような検討を重ねてきたのか、市民にわかりやすく説明していただきたい。防災拠点としての学校、モデル地区としての学校給食の復活を望む。

「おかしい」と思ったことは、声を上げていきましょう。

○「小6・3」のお父さん「美味しい給食に感謝しています。昨年まで消防団をやっていました。災害時地域の人を守るということを考えたとき、給食をつくる場所をせめて千曲川「右岸と左岸に必要だと思えます。」  
○現役の教員「学校給食がただ単に子どもたちだけ

けのものではなく、高齢化がすすむ今、大人も学校給食を食べることができるようなシステム「上田モデル」を提案したい。お金の問題では、無駄づかいはないのかチェックできる市民になることも大事です。」

### 市民が中心になってもう一度話し合う

コーディネーター 久保木匡介 長野大学教授

このままでは、ただ単に市の方針に賛成か反対かの議論になってしまいます。そうではなく、給食とは何か、どういう意義があるのか。自校がはぐくんできたものはなんなのか、大規模センター化によって何がもたらされるのか。

これからの上田市の給食をどうしていくのか、自校給食をどうするのか、センター給食をどうするのか。今から当事者である市民や保護者を巻き込んだ、議論の場を設けて徹底して議論して、合意形成をはかっていくことが求められる。

政治をかえるチャンス  
今度は選挙区は【杉尾ひでや野党統一候補】  
比例区はひき続き「日本共産党」

いよいよ、参院選の選挙は、日本の命運を決する重大な意義を持つ歴史的な選挙になってきています。安保法制の成立による戦争加担の準備、それを万全にするための9条改憲など、これまでに進められてきた安倍政治の全体が参院選で問われなければなりません。とりわけ改憲については、目立たないようにこっそりと公約の片隅に書いておき、勝利したら信任を得たという突進するつもりなのでしよう。もちろん、首相自身が前面に打ち出しているアベノミクスについてもきつぱりとした審判を下す必要がありませぬ。

アベノミクスが成功していれば、再増税可能な経済状態が生まれ、消費が腰折れするかもしれないから再増税を先送りするといふことは、腰折れしないような消費を生み出せなかったからで、それこそアベノミクスの失敗そのものではありませぬか。今、若い人の間で安倍首相は「ホラツチヨ、アベ」と呼ばれているそうです。ホラばかり吹いているからでしょう。一国の首相がこのように呼ばれ、多くの人がその通りだと思ってしまうような状況は情けない限りです。政治責任を取って退陣せざるを得ないところに安倍首相を追い込まなければ、政治への信頼を回復することは不可能です。

